

はたや記念館ゆめおれ勝山 7月18日オープン

はたや記念館ゆめおれ勝山は、市指定文化財であり国の近代化産業遺産として認定された建物です。この建物を保存し後世に残すと共に、市民と来訪者との交流機能、観光の起点としての情報の受信・発信機能および繊維のまち勝山の歴史と文化を紹介するミュージアム機能を持たせ活用することにより、中心市街地の活性化を目指します。



カフェコーナーおよびショップ 運営事業者募集

はたや記念館ゆめおれ勝山内の機能の充実を図るため、カフェコーナーおよびショップの運営事業者を広く募集します。

業務▼はたや記念館ゆめおれ勝山のカフェコーナー・ショップの運営
委託期間▼7月18日(土)～平成24年3月31日(土)

営業日▼はたや記念館ゆめおれ勝山の開館日、開館時間

申込資格▼勝山市内に事務所を有する法人、団体もしくは住んでいる個人を対象

募集要項等配布期限▼5月1日(金)要項配布場所▼はたや記念館ゆめおれ勝山、または、観光政策課(はたや記念館ホームページから随時ダウンロードできます)

提出書類受付▼4月23日(木)～5月1日(金) 平日

※また、現地説明会を4月17日(金)午後1時から、はたや記念館ゆめおれ勝山イベント体験ホールにて行います。4月15日(水)までにお申し込みください

申・問 はたや記念館ゆめおれ勝山
(☎87・1200)
(FAX 87・1221)

中部縦貫自動車道(永平寺大野道路) 勝山・上志比間が開通!

3月28日、中部縦貫自動車道(永平寺大野道路)の勝山―上志比間の開通式が、勝山インターチェンジ(鹿谷町発坂)部で盛大に行われました。

関係者など230人が出席した式典で、山岸市長は、「今日の開通はわずか7・9kmですが、これから更なる整備に向けての大きな一歩になります。」と早期全線開通の決意を込めたあいさつを述べました。



関係者と鹿谷保育園児によるテープカットで開通を祝福

式典後に関係者と鹿谷保育園児によるテープカットで一部開通を祝いました。さらに、この後関係車両が通り初めを行い、当日午後5時から一般車両も通れる供用開始となりました。



強風の中、ゴール手前の鹿谷高架橋を歩く参加者の皆さん

また、これに先立ち、この一部開通を記念した「ハイウェイウォーク」が3月22日に行われました。

当日は、強い風と時折り小雨が降るあいにくの天気となりましたが、歩けるのはこの日限りということもあって、親子連れなど約2200人のかたがたが眺めなどを楽しみながら7・9kmの新しい道を歩きました。

勝山市の産業・観光の発展に大きく寄与する中部縦貫自動車道。市民の願いである長野県松本市までの全線開通を、今後も国などに強く要望していきます。

愛称決定

恐竜バス 「ダイナゴン」

昨年10月から土・日・祝日は観光バスとして、平日は福祉バスとして恐竜ラッピングバスが運行しています。

勝山市では、このバスをより市民のかたに愛着を持っていただくため、広く愛称を募集した結果、福井県内だけでなく宮城、神奈川、愛知など県外からも応募があり、全部で132件となりました。

審査の結果、恐竜ラッピングバスは昭和町3丁目の中山典子さんの恐竜バス「ダイナゴン」と決定しました。

今後も、市内観光バス・福祉バスとして、恐竜バス「ダイナゴン」のご利用をお願いします。

また、応募をいただきました市民の皆様、ありがとうございました。



インタビュー



中山典子さん(48)
=昭和町3=

恐竜ラッピングバスが実際に走っているのを初めて見たとき、その描かれた恐竜に迫力があって、恐竜のダイナソーとドラゴンを合体させた「ダイナゴン」という名前がひらめきました。愛称に決まると聞いて、まさかと驚きました。愛称と同じく、親しみやすいバスであってほしいと思います。

問 福祉・児童課(☎87・0777)

1. 市内観光バス

運賃▼1日100円
運行日▼土・日・祝日および勝山市が指定する日

ルート▼勝山駅を起点に、恐竜博物館方面」と「平泉寺・大仏方面」の2ルートを交互に運行しています

問 生活環境課(☎88・8104)

2. 福祉バス

対象者▼高齢者や障がい者などの団体、社会福祉協議会加入の団体、幼稚園・保育園・小中学校などの団体

利用目的▼公共施設や史跡などの見学、交流、社会参加などのため

料金▼無料

運行範囲▼奥越管内(障がい者は福井県内)

運行時間▼午前8時30分～5時30分

申込期間▼利用希望日の3か月前から

5日前まで

冬眠明けのクマに注意!

春、クマは冬眠(冬ごもり)から覚め、食べ物を探して活発に活動します。県内の山はクマの生息地ですから、どの山でもクマと出会う可能性があります。これから山に出掛けるかたは、クマと出会わないよう、次のことにご注意ください。

■身近な里山でもクマは暮らしています

行き慣れた身近な里山でもクマとの遭遇に注意を払うことが必要です。

■入山地域のクマの出没状況を確認し、危険な場所には近づかない

細心の注意をもって山に入りましょう。

■鈴、笛、ラジオなど音が出るものを携帯し、クマに自分の存在を知らせる

クマは聴覚や嗅覚が人より優れているため、人の接近をいち早く察知し、人を避けます。

■悪天候の日には特に注意

雨や風の音、霧などにより、クマも人の気配に気付かず至近距離まで接近することがあります。

■子グマを見たらそっと立ち去る

近くには必ず母グマがいます。子グマに近づいたりすると、母グマは子グマの危険を感じて人を攻撃することがあります。



ツキノワグマの足跡
(右：前足、左：後足)



クマを目撃した場合や、クマの痕跡を見つけた場合は左記までご連絡ください。

問 勝山警察署(☎88・0110)

農林政策課(☎88・8106)

※クマに出会った場合の対処法について、県のホームページで詳しく紹介しています

(http://www.pref.fukui.jp/doc/shizen/tixyouzixyuu/tukinow/aguma.html)